

LED 電球を利用した エラチオール・ベゴニアの開花時期の調整

エラチオール・ベゴニアは、県内全域で生産が行われている鉢花で、花が咲く時期を調整するために、夜間に白熱灯や蛍光灯の光を当てて栽培しています。

消費電力の小さいLED電球の導入に向けて色の違いや設置する位置などを分析した結果、電球色のLED電球ならば、従来の方法と同等の効果があることがわかりました。これにより、電気代や電球交換という栽培コストを大幅に削減することができます。

1 成果の内容

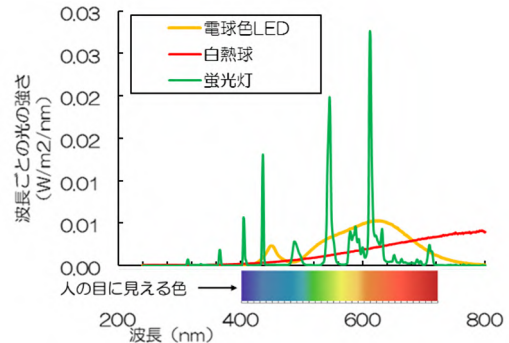
エラチオール・ベゴニアは、昼間の時間が一定以上短くなると花が咲くため、日が短い秋から冬には、株が大きくなる前に花が咲いてしまい、商品としての評価が下がります。

そこで、株を大きくしてから花が咲くよう調整するために、夜間に白熱灯や蛍光灯の光を当てて、昼間が長いと感じさせる電照栽培^{でんしょうさいばい}が行われています。

- (1) 赤い色を含む電球色のLED電球を用いることで、これまでの白熱灯を用いた場合に比べて株がやや大きくなり、蛍光灯を用いた場合とよく似た株の姿になることがわかりました。



株が大きく、鉢とのバランスが取れているほど高品質とされます



試験に用いた照明の波長

- (2) LED電球は高価ですが寿命が長く消費電力が少ないため、10年間の電球及び電気代にかかる経費は白熱灯に比べて約9割、蛍光灯に比べて約6割削減することができます。

2 普及の状況

県内の生産者組織「千葉県鉢花生産者連絡協議会」の生産者を中心に導入が進んでいます(15戸)。

- 3 問い合わせ先 千葉県農林総合研究センター
花植木研究室 043-291-0151(代)

- 4 掲載年月 平成30年1月(令和5年12月更新)